

ほろけもん

③⑤ やいやいや



大崎短歌会

兼題『すだれ・風鈴』

一切れの沢庵で食べた握り飯
すだれ揺れてた祖母逝きし日に
涼やかな軒端の風鈴風に揺れ
十六夜の月思い耽りて
揺ている風に吹かれて風鈴が
涼を呼んでる厘りんりと
補聴器の音量上げて響きくる
風鈴涼し梅雨も明けたり
軒端には二メートル四方のスタレ下げ
エアコン扇風機毎日ふる回転
チリリンと風の便りの風鈴に
心癒され暑さ何処へ
誰一人知らずとも揺る紙風鈴
夕さりの頃小さき風に

山下海征
井元かず子
実吉安仁
本後淑子
穂園芳江
栢山重子
馬場みさ

薩摩郷句

兼題『金』

短歌会は月一回で道の駅
座長工夫で風鈴のごと
電子音の機器増えたりき風鈴や
どこに居るのか音たててみよ

川崎健一
上南紀子

貸し借いの 金でけ壊えた 友達の仲
(唱) 貸せた返じたで 友情も今日迄
諸木小春

恐喝ん 金で外遊い 食放題で食つ
(唱) やくざん世界 じゃろそな議會
上村牛歩

金ぬ使こつ てげな揉め事ちや 済ませちよつ
(唱) 金で済ますち 驕っちゃいかん
北村虎王

小銭どん 投げつ大と大と 願げをしつ
(唱) 紙の金ぬば 呉れち神様
遠矢耐多

金欲せ バイト青年どが 詐欺をしつ
(唱) 金に釣られつ 親を泣かせつ
上窪小絵

欲し物な 無ごつなつたが 金な別
(唱) 欲か無言ながい 気強いた金じゃ
井上三ちゃん

金の成い 木をば探け 老夫婦
(唱) 何処ん山なち 付つ来た息子
長重リリー

金な欲し 栄一どんな 直き出つ
(唱) 偶にやゆつくい して行つきゃんせ
藤元鬼瓦

汗水で 金銭稼稼つ 親へ感謝
(唱) 大人なつわかつた 親んご苦労
佐藤ぼつけちゃん

三歳児も 金ぬ見すれば にこっしつ
(唱) あんたもやっぱい 金な好つかよ
西ノ園ひらり

金な無て 金持つ顔で 世を渡つ
(唱) 十人が十人 金持つ思つ
二見愚楽満